

うつけ通信 vol. 14

先月号に続きまして、宮本先生の文章の続きを掲載いたします。

愚申蔵 「ちがった財産を発見してほしい」(先月号よりのうつけ)

こうした四面楚歌の状況下に、論争では無く、実生活で証明せざるをえない羽目に追いやられ、第一号の棟を建造するに至るのである。

人々は当然見学にやって来た。ところが、実物を目にしてこそその本質を読み取れるものは居なかった。心の底にある自分自身の先入観をフリーに出来る人は、一人として居なかった。見た現実と自分の考え方との違いに対して、「何故、そうすると腐らなくなるのか」と訊く人も居ないし、「何故、便利さ等の願望よりも腐らない事を優先させるのか」との質問も無い。殆どは、手前勝手な価値観を陰口する者ばかりであった。もっと酷いのは、設計士等の業者であった。何か、盗めるものはないかとやって来た。

私はこうした体験から、真剣な者が、住まいを軽く考えている者かを未然に分別する為に、玄関に入場料50万円と表示したのである。木賃宿の公衆便所と間違えられては困るのである。この棟は、私たちの家族の命を実験台にした12年以上の証なのである。目的とは

何かと言えば、真実を証明するためだけである。だからこんな建て方を他人に勧めたり、注文を取るためでも無い。

地震も台風も体験し、春夏秋冬の中に私達家族は生きた。しかし、北国や台風の通り道の島民にとっては、さらなる実証と証明が欲しいところだろう。偶然にも寒い地域でモルモットになる事を申し出る、物好きな人とも出会った。だから東北の寒い地域でモルモット棟を建てた。だから現在東北にも呼吸する家に住む家族が居る。それでも信じない者ばかりだ。多く聞かされる言葉は「私は寒がりな者で」である。「寒がり」は血液循環不良・皮膚呼吸不足・適応能力低下・冷え性という病気である。特に「自分は寒がりだから・・・」は、一種の精神病である。その事に一刻も早く気付いて欲しい。

「寒がりだから・・・」という人達は、北国で暮らしている家族がいるという実証があるにもかかわらず、穴だらけの家だから寒いだろうという先入観がぬぐえない。だが、その人に奥さんが居れば、子供が居れば、そのたった一人の「寒がりだから・・・」が家族を巻き込み道連れにして、精神まで腐らされてしまうのである。そればかりで無く、彼らのその精神病は次世代の子孫まで巻き込むのである。彼らは自分だけの事で他人には関係ないと思込んでいるようだが、自分一人の問題では無い。その寒がり病に因って、密閉する考え方の家が、早く腐る家を生み出す。早く消滅する家は大量かつハイペースに地球資源をむさばると共に、大量の産業廃棄物を発生させ、地球環境破壊に手を染めているのである。今現在の目の玉が黒い人は、良いかも知れないが、後に産まれる子孫には何の罪も無い。たった一言の寒がりの

先入観がその子孫に多大な負担を及ぼすのである。だから私は、自分のことばかりを考え、家族や子孫や地球環境のことを考えられないのは精神が病んでいると公言するのである。

寒がりの人にこそ「呼吸する家」は必要である。「寒がりだから・・・」の人ほど、「呼吸する家」に住んで精神を正さなければならぬ。「呼吸する家」に住めば血行がよくなり「寒がり」も治るし、「寒がりだから・・・」も治るのである。

茶畑の扇風機は、夏の暑さを凌ぐ為には無い。冬に働かすのである。冬場に扇風機を回転させるとは、想像しただけでも寒くなるのではないか。常識では考えられない現実である。ところが、お茶の木は、むしろ病気にも害虫にも強く元気なのだ。そればかりではない、お茶の葉の質は向上するのである。この様な人間の思い込みと逆転する自然法則の結果は、他にもある。例えば、半身不随の身体に成った場合、努力するリハビリがある。しかしそっと寝かせて置くのと治る様に思う通念もある。どちらが楽か、苦しいかは、常識の様に万民は知っている。しかし、いずれが社会復帰できるのか。

植物であれ動物であれ、生命というものは、この様に試験を乗り越えて、その結果を味わうものである。その味わいを生き甲斐とか、達成感あるいは満足と表現する。高校野球でさえもそうではないか。涙するの、喜ぶの、それ以前の練習等の厳しさの賜物である。人間は特に、人生の生き様に意義を持つ動物である。

前置きが長くなったけれど、「呼吸する家」は穴だらけなのに実は寒くない。むしろ、人々が暖かいと

か強いと思ひ込んでゐる近代建築よりも、むしろこの穴だらけの住まいが暖かい。それは何故なのか。その原理を次に述べてみる。

それは、縦の風の原動力は何かを理解すると判明する。縦の風の熱源は、地熱である。地熱の蓄熱される期間は、地下水から推定すると、夏冬が逆転する6ヶ月と考えられる。だから夏には微弱な温度差ではあるが、冷風が昇つて来る。冬には暖かい縦の風が上昇して来る。現代の家はこの冷風や暖風を遮断している。しかし「呼吸する家」は、この熱を活用しているのである。

私は、公言するかぎりには、子孫や国家或いは地球規模の視野に於いて、尚且つ実大実証を持つて成す。だから誰ともなく、私の事を「サヤの無い刀」とアタ名する。しかしそれ程堅物でも無い。人に喜ばれることをしようとか、人の病気を治そうとかいう気はあまりない。まして他人の家を建てて注文の一つでも多くとろうなんて気は、サラサラ無い。ただ、賛同を頂いた両親や家族、そしてこの私程度を信じてモルモットになろうとする方々の為に証さねばならぬと考へてのことである。この世は「善悪駒揃いませ」で成り立つ均衡の法則であるから、それ程に硬く考へていない。ただ自然法則に成り代わつて証言し、モルモットの真実の証を書いたまでである。



（宮基無茶思）

ゼロ企画：貴重な文章をありがとございます。宮本先生が「呼吸する家」を建てられている一番の目的は実証だということがわかりました。

宮本先生：そうですね。こちらの言っていることがウソでないということを実証するためです。僕のやっていることは、家にしても土にしても過去に類がないものですから、実証がなければ誰も認めてくれないでしょう。しかしそこに住む人が健康になれるという実証があれば、うそつき呼ばわりされることだけはありせんからな。

ゼロ企画：現に「呼吸する家」があるおかげで、私たちもそのことがよくわかります。体験にまさる説得はないですね。これから体験ハウスもできて、「呼吸する家」の効果を体験される方が増えれば、世の中の理解も得られていくでしょうから、「呼吸する家」の建築も事業として成り立っていきそうですね。

宮本先生：いえ、僕としては「呼吸する家」を建てることを商売にするつもりは全く無いんです。申し訳ないが、これで一旗挙げようという気は毛頭ないです。それは僕の役割ではないですから。そういったことはこの家の原理を理解してくれる建築家なり工務店なりが将来現われたときに、その人達がやってくれば良いことだとおもっています。ただ、そのときに現物の見本や実証が無ければ正しい理解が得られず、必ず歪んでいくでしょう。だからこの「呼吸する家」の真の価値や意味が社会に認知されるまでは、僕が踏ん張っていかなければならないとおもっています。さらに僕がこの世を去っても永遠不滅に歪みを食い止めることができるものが以前にお話しした「正統工法継承村」であるというわけです。

ゼロ企画：リハビリの話はとてもわかりやすいです。困難を乗り越える向こうに回復という喜びがまつて

いるということですね。

宮本先生：そうですね。しかし本当のところは結果よりも、目標に向かって進む、乗り越えようとする、そのこと自体に価値があり喜びがあるんですよ。題名の「ちがった財産を発見してほしい」というのはそういった意味も含んでいます。回復に向かつてリハビリを頑張る、高校球児が甲子園での優勝に向かつて血のにじむような努力をする、そのこと自体に価値があります。エネルギーシユに生きる、ダイナミックに生きる。この生き方自体に価値があるわけです。生きがいをもって生きることこそ、その人にとつての本当の財産なんです。

例えば僕の場合は三つの村の創設という高い目標を設定していますけれども、これに向かつて努力するところに僕の生きがいがあるわけです。三つの村はとも大きな目標ですし、僕一人でやれることではないですから、達成できるかどうかなんて僕自身にもわかりません。でもそのことに向かつて全力で命がけで力の限り努力するところに僕の存在意義があるわけです。誰もが最期は死を迎えるのですが、そのときに、いい人生だったかどうか、喜んで人生を終えられるかどうかは、得られた結果よりも、目標に向かつてどれだけの生き方をしたかということによつてというわけです。

この続きはまた次号へ。この先は「苦」や「悟り」について話が展開します。無茶思流の悟りとはいかなるものか？うつけは釈迦を超えるのか？（笑）

次回もお楽しみに！

編集 ゼロ企画関西支部（0724）67・0644

担当 辻